

小・中学校

平成 14 年 度

教育研究員研究報告書

教 育 課 題

東京都教職員研修センター

**平成14年度
教育研究員名簿（教育課題）**

地 区	学 校 名	研 究 員 氏 名
渋谷区	西 原 小 学 校	加 藤 康 弘
練馬区	高 松 小 学 校	○ 清 水 宣 宏
葛飾区	花 の 木 小 学 校	松 崎 行 雄
八王子市	松 が 谷 小 学 校	石 川 淳
青梅市	第 四 小 学 校	高 見 沢 正
西東京市	中 原 小 学 校	小 尾 明 子
千代田区	麴 町 中 学 校	○ 関 山 康 紀
台東区	忍 岡 中 学 校	◎ 松 澤 信 男
品川区	鈴ヶ森中 学 校	八 木 泰 弘
中野区	第 十 一 中 学 校	松 下 剛
江戸川区	南葛西第二中 学 校	高 橋 光 仁
調布市	第 六 中 学 校	渡 辺 敦
東久留米市	西 中 学 校	遠 藤 義 幸

◎世話人 ○副世話人

（担当）東京都教職員研修センター 指導主事 阿字 宏康

目 次

ページ

I 主題設定の理由	2
II 研究の仮説	2
III 研究の構想	3
IV 子どもの現状	4
1 子どもたちの実態	4
(1) 社会性の欠如	4
(2) 教師が感じる生徒の状況（10年前との比較）	4
2 社会的背景	4
3 社会的な要請	5
V 授業展開のモデル	6
VI コミュニケーション能力育成にかかわる指導の重点	7
VII 指導の手だて	8
A 学習過程の工夫	8
B 適切な支援	9
C スキルの指導	9
D 評価	11
VIII 指導事例	
事例 1（中学校2年 国語科）	13
1 単元名 「ニュース番組を作ろう」	13
2 単元のねらい	13
3 学習指導計画	13
4 本時の指導	14
5 授業を振り返って	15
事例 2（小学校3年 音楽—総合的な学習に向けて）	18
1 単元名 「歌って、踊って、合わせて—3年・キッズソーラン Part 2」	18
2 単元のねらい	18
3 本主題との関連	19
4 学習指導計画	18
5 本時の指導	20
6 授業を振り返って	20
IX 研究の成果と課題	24

研究主題 コミュニケーションを大切にした指導法の工夫

I 主題設定の理由

今日の社会は国際化、情報化が進み、人々の生活も大きな変化を見せている。核家族化や地域社会の人間関係の希薄化は他者とのかかわりを減少させている。また、子どもの世界では少子化の進行に伴い異世代間のかかわりの減少、テレビゲームに代表される遊び方や遊び集団の変容が見られるようになった。

このような社会的・家庭的背景からか、学校の子どもたちの間に次のような実態が多く見受けられ、結果として互いに人間関係を築く上での問題となっている。

- ① 自己中心的な言動等で人とかかわり合いが不十分である。
- ② 話したり聞いたりする力（スキル）が低く、言語を通じた交流が苦手である。
- ③ 各発達段階に応じた自己表現が不十分である。
- ④ 自分と異なる他の存在や考え方を認めず、一方で自尊感情が低く排他的になりやすい。

そこでこれからの学校教育では、これらの現状を踏まえて学校教育のあらゆる場面で意図的にコミュニケーションの機会を設け、子どもたちの学習に取り入れることが重要であると考ええる。また自らの考えを他者に伝え、他者の考えをきちんと受け取れるような言語生活の適正化をはかることは単に他者理解のみならず、自己理解や自己の確立にもつながる。さらに子どもたちの帰属意識・連帯感を育むことも期待できる。一方で社会からは子どもたちの情報収集・選択能力や自らの考えや思いを適切に表現する力の育成が求められている。

これらの考えから、互いが認め合い、豊かな人間関係を築くための一助として本主題を設定した。

なおコミュニケーションには様々な考え方があるが、本研究では「人と人とか相互理解や自己理解のために、かかわり合ったり情報や意思を伝え合ったりすること」ととらえ、その面からのアプローチを行った。

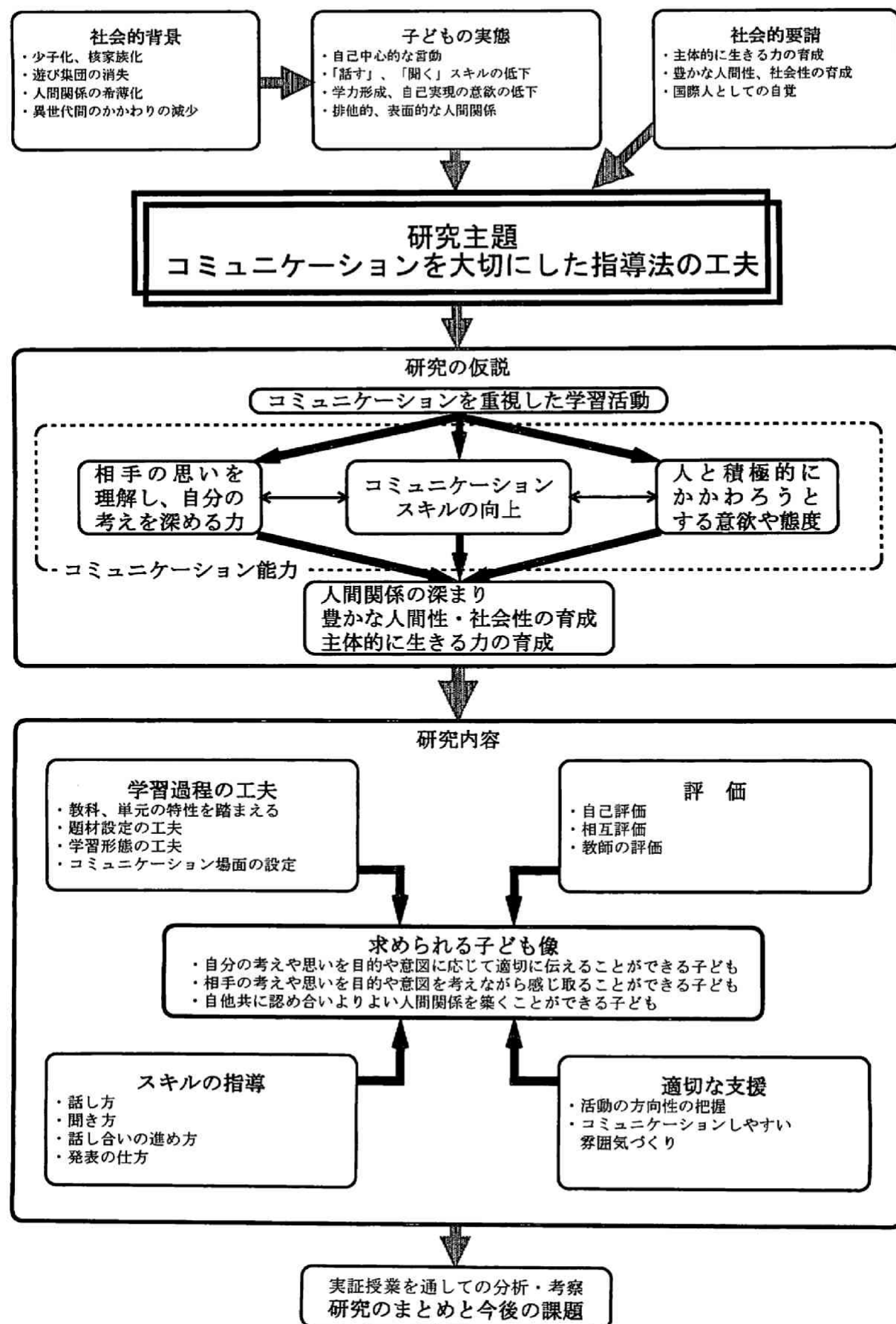
II 研究の仮説

研究主題を踏まえ、本研究では以下のように仮説を立てた。

コミュニケーションの機会や方法を意識した学習活動を、日常的に各教科等に取り入れるようにする。それによって子どもたちには、それぞれの学習課題を解決するために周囲に働きかけたり、意見を聞いて考えなければならない場面が増える。伝えあうことの意義や重要性を知り、適切な話し方と言葉の使い方や、話を聞くときの態度に意識をもつようになる。同時に、場面や相手に応じた話し方や聴き方の指導を行うことにより、少しずつ人とかかわろうとする意欲や態度、話を適切にとらえる力、伝え方のスキルが向上する。そして次第に人とかかわることが快いと感じるようになることで、さらにかかわりをもとうとし、コミュニケーションが円滑になり得る。

このような指導を繰り返し行うことで、子どもたちは豊かな人間関係を築く基礎を身につける。子どもたちの日常生活はより充実した有意義なものに変容し、ひいては子どもたちの生きる力を高めることにもつながると考える。

Ⅲ 研究の構想



Ⅳ 子どもの現状

本研究の背景として、現代の社会的・家庭的背景の問題があり、その中で生活している子どもたちは、コミュニケーションにかかわる様々な問題を抱えている。そこで、「子どもたちの実態」「社会的背景」「社会的な要請」の三つの観点から子どもの置かれている現状についてまとめた。

1 子どものたち実態

(1) 社会性の欠如

子どもたちの友人との付き合い方について、平成4年のNHK世論調査では、「親友」との付き合い方において、「心の深いところは出さないで」「ごく表面的に」と答えた者の合計は、中学生で35.1%に上り、「普通の友達」との場合においても、中学生で84.3%の者がそう答えている。こうしたことの中に、生活体験や社会体験の不足もあって、子どもたちの人間関係をつくる力が弱いなど社会性のなさが表れている。（平成8年文部省中央教育審議会答申）

(2) 教師が感じる生徒の状況（10年前との比較）

子どもの「力」は10年前くらいと比べてどう変化したかについて、小学校の教師の80%以上が「がまん強さ（90.9%）」「集団としてのモラル（80.6%）」において低下を感じている。

また、「友達を思いやる心」においても56.7%と高い割合で低下を感じている。

同じような状況を中学校の教師も感じている。10年前と比べて問題のある生徒が増えていると思うかについて、80%以上の教師が「キレやすい」「まわりの人とうまくコミュニケーションがとれない」「自己中心的でまわりのことを考えない」ような生徒が増えていると感じている。（平成11年ベネッセ教育研究所モノグラフ・小学生ナウ VOL19-2及び平成13年同誌・中学生の世界 VOL68）

以上のような調査結果から、友達とのコミュニケーションをうまくとることができない子どもが増加している現状がうかがえる。

2 社会的背景

若い世代を中心に子育てに対する負担感が大きなものとなるなどの問題が生じている。このことは企業中心の社会システムの下、夫婦が時間的・精神的なゆとりを失ったことも一因となって、少子化を招来する背景の一つになっていると指摘されている。

平成12年に東京都が行った「青少年に関する世論調査」によると、「親子の結びつきが弱くなった（71%）」「子どもに対して自信がない（父親37%、母親31%）」と、子育てに不安を感じる親の割合が大きくなっている。さらに、平成14年版『東京の社会福祉＜子ども家庭福祉＞』では、「核家族化が進んだことや親同士のつながりが薄れていることなどから、家庭や地域の子育てを行う力が低下してきている」との指摘もある。

そのような中、都市化・過疎化の進行など子どもたちを取り巻く社会環境が変化し、また家庭でも、テレビの個別保有と個室の増加・家族内の生活時間の違いなどによる家族内の個別化が進んでいる。住田正樹の著書『地域社会と教育』の中でも、「子どもの所有物」についての調査結果から「子どもの個人主義的私生活化」が進んでいると述べている。

また、テレビゲームの普及や塾・習い事に費やす時間の増加などによって、子ども同士の

触れ合う機会や自然体験・社会体験などの減少が危惧されている。特に、異年齢の子どもと触れ合う機会が減ってきていることで、子ども同士でのかかわる技術・知識を自然に学ぶことが少なくなっている。仙田満の著書『子どもとあそび』でも、昭和30年に戸外あそびが平均3時間程度、室内あそびが平均1.5時間程度であった子どものあそび時間が、平成3年には戸外あそびが平均1時間程度、室内あそびが平均4時間程度になり、昭和40年を境に逆転現象が見られつつあることが報告されている。

このように、最近の子どもにおいて、仲間同士での遊びや家族等との触れ合いが不十分な状況となっている。

3 社会的な要請

中央教育審議会「幼児期からの心の教育の在り方について」答申（「新しい時代を拓く心を育てるために」―次世代を育てる心を失う危機―平成10年6月30日）では、子どもたちの心をめぐる問題が広範にわたることを踏まえ、社会全体、家庭、地域社会、学校それぞれについてその在り方を見直し、子どもたちのよりよい成長を目指してどのような点に今取り組んでいくべきかということを具体的に提言している。

その第4章の「心を育てる場として学校を見直そう」において、人の話を聞く姿勢や自分の考えを論理的に表現する能力を身につけさせることについて、次のように提言している。

今後重視されるべき学習方法の一つとして、教員の適切な助言を受けながら、あるテーマの下に子どもを中心に話し合い、よりよい問題の解決の方向を見いだしていく体験となるディスカッションやディベートの重要性を挙げている。このような体験は、子どもたちの積極性や主体性を引き出し、問題解決能力を育成する上で大きな効果があると指摘している。また、子どもたちは、そうした学習方法を通じて、人の話をよく聞く姿勢、自分の考えを論理的に表現する能力、的確な批判精神と相手を説得する力などを身につけていくことを期待している。

東京都が推進している「心の東京革命」でも次のような子どもの現状を危惧している。

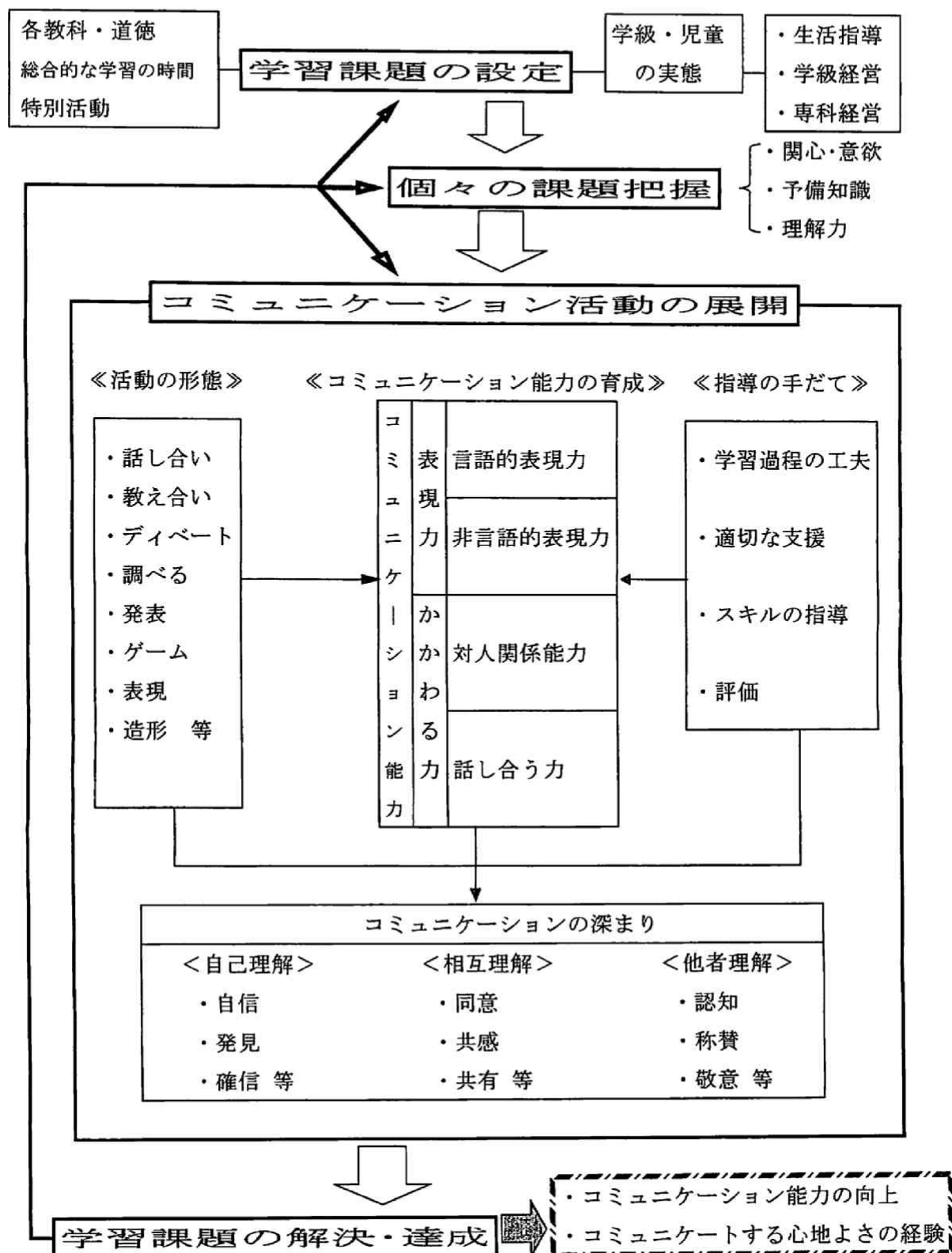
「社会の基本的なルールやマナーが守れない子ども、良好な人間関係を築くことができない子ども、他者への思いやりに欠け我慢のできない子どもが増加し、様々な社会問題を引き起こしている。」そこで、その対策として東京都教育委員会でも都民の要請を受け、多様な事業を展開している。具体的には、「トライ&チャレンジふれあい月間」「東京親子ふれあいキャンペーン」などの実施により、親子のふれあいを通し子どもが自然に社会の基本的ルールを体得する活動を推進している。また、若い親に対して子どものしつけや家庭教育の講座の提供、地域の高齢者と子ども達がふれあう事業を展開している。

第15期中央教育審議会第一次答申では、国際化と教育に関して、①広い視野をもち異文化を理解し、これを尊重する態度や異なる文化をもった人々と共に生きていく資質や能力の育成を図ること、②日本人として、個人としての自己の確立を図ること、③国際社会において相手の立場を尊重し、自分の考えや意思を表現できる基礎的な力を育成する観点から、外国語能力の基礎や表現力等コミュニケーション能力の育成を図ることの3点を強調している。

その他、国語審議会の答申等でもコミュニケーションにかかわる内容について取り上げられており、広くコミュニケーションの重要性について指摘されていると考える。

V 授業展開のモデル

コミュニケーションを取り入れた授業（学習活動）の展開を下記に示した。このような授業展開が意識的に繰り返される事によって子どもたちのコミュニケーション能力が高まり、またコミュニケーションのよさを十分に味わわせる事ができると考えた。本研究ではこのような授業展開と以下に示す具体的な手だてをふまえ、単元及び本時の授業を計画した。



Ⅵ コミュニケーション能力育成にかかわる指導の重点

コミュニケーション能力を表現力とかかわり合う力からなるものとしてとらえ、各発達段階におけるにかかわる指導のポイントを、以下のように考えた。

	コミュニケーション能力			
	表 現 力		かかわり合う力	
	言語的表現力	非言語的表現力	対人関係能力	話し合う力
小学校 低学年	伝えたいことを選ぶ ・知らせたいことを選んで話す ・作文では事柄の順序を考えながら書く	表現の楽しさに気づく ・音遊びやダンスを楽しむ	学校の友だちと自由にかかわる ・ゲームをして楽しむ ・一緒に取り組む	話題に沿って話す ・楽しかったことなどを話す
小学校 中学年	伝える内容を整理する ・筋道を立てて話す ・簡単な文章の組み立てを考えて書く	表現の楽しさを味わう ・つくりだす喜びを味わう ・合唱合奏、身体表現、造形活動に親しむ	いろいろな人とかかわる ・地域の人々と触れ合う ・ちがいに気づく	互いの考えの相違点や共通点を考えながら話す ・相手の話をよく聞く ・感じたことや思ったことを話し合う
小学校 高学年	目的や場に応じて表現する ・目的や場に応じた適切な言葉遣いで話す。 ・文章の組み立てを工夫して書く	内容に応じた表現技法を工夫する ・表現したいテーマを選び、グループで簡単な作品にまとめる ・例示するなど、内容構成を工夫する	互いに認め合う ・自分のよさに気づく ・相手のよさを認める ・ちがいを認め合う	自分の立場や意図をはっきりさせながら話し合う ・自分の立場や意図をはっきりと述べる ・学級の諸問題を話し合う
中学校	内容構成や展開を工夫する ・話の論理的な構成や展開を考えて話す ・事実と意見との関係に注意して書く	多様な表現方法や構成要素に関心をもち、工夫して表現する ・素材や技法を工夫して表現する ・視線や身振りを意識して表現する	互いに尊重し合う ・協力して目標の達成をめざす ・相手の気持ちを考えて行動する	話し合いが目的に沿って効果的に展開するよう話し合う ・相手の質問を予想しながら内容を整理し、話し合う ・相手に共感的理解を示す

Ⅶ 指導の手だて

コミュニケーションの機会や方法を意識した学習活動を日常的に取り入れ、コミュニケーション能力の育成を実現するためには、学習活動を進める中で配慮しなければならない手だてが必要であると考えた。そこで、学習過程の工夫、適切な支援、スキルの指導、評価の四つの面について、次の表のような手だてを想定した。

これらの中から、各教科等や単元の内容によって有効な手だてを取り入れ、コミュニケーション能力の育成を図ろうと考えた。

また、本実践事例で扱った手だてを、○（取り入れた手だて）、◎（重点をおいた手だて）の印で示した。

A 学 習 過 程 の 工 夫		事例 1	事例 2
1 教科、単元の特性を踏まえる	①各教科それぞれの表現方法の指導をする (音、動作、造形、言語)	◎	◎
	②各教科、単元それぞれの目的意識をもたせる	◎	◎
2 題材設定の工夫	①身近な題材	◎	
	②子どもたちの関心、意欲を引き出せる題材	◎	◎
	③多様な意見を引き出せる題材	◎	
	④達成感を実感できる題材	◎	◎
	⑤目的意識をもちやすい題材	◎	
	⑥体験したことをもとにした題材	○	◎
	⑦共通理解の得やすい題材	◎	
3 学習形態の工夫	①個人の考えの確立	◎	○
	②小グループによる話し合い	◎	◎
	③全体での話し合い	◎	◎
	④課題別、習熟度別等の工夫		
	⑤討論形式の活用	◎	
	⑥プレゼンテーション形式の活用	◎	
4 コミュニケーション場面の設定	①場面を設定しやすい課題の工夫	◎	○
	②時間の確保	◎	
	③コミュニケーション活動の展開の工夫	◎	
	④相手や場の工夫	◎	◎
	⑤帯時間での設定		
	⑥各教科それぞれのコミュニケーション場面の工夫	◎	◎

B 適切な支援		事例 1	事例 2
1 活動の把握と促進	①ねらいをはっきり持たせる(ねらいの明確化) ・取り組む活動の目的、議題を確認させる	◎	◎
	②方向性を持たせた上で、やるべきことを理解させる ・具体的な到達目標、個人の役割を確認し理解させる	◎	◎
	③目的から逸脱しないようにする ・雑談や非難をせず、話の中心をとらえて聞くようにさせる	◎	
	④場面や状況に応じて適切かつ簡潔な支援をする 子どもの言葉を補ったり言い直しをさせたりする	◎	
	⑤話し相手を意識させる	◎	
2 コミュニケーションしやすい雰囲気	①多様な意見を尊重する ・正誤の判断のみにこだわらない ・少数意見を尊重する	◎	
	②相手の意見を素直に受け入れて、尊重しあえるようにする ・自分の意見と異なっても、まず受け入れる	◎	◎
	③意見・発言に対する適切な評価と励ましをする	◎	◎
	④コミュニケーションの楽しさ、よさを味わわせる	◎	◎
	⑤わかりやすい資料を提示し、話し合いを促進させる	◎	
	⑥ワークシートへの記入など、発信準備を手助けする	◎	○
	⑦状況に応じた話し方をさせる	◎	
	⑧聞き手と話し手が相互評価しながら対話活動ができるようにする	◎	◎
	⑨コミュニケーションに対する意欲を向上させる準備をする	◎	○

C スキルの指導		事例 1	事例 2
1 話し方	①相手の方を見て話す	◎	◎
	②自分の考えを筋道だてて話す	◎	○
	③音量や早さに気をつけて話す	◎	

	④相手や場・目的に応じた適切な言葉遣いで話す	◎	○
	⑤話の組み立てを工夫して話す	◎	
	⑥はっきりとした発音で話す	◎	○
	⑦語句の使い方を工夫して話す	○	
	⑧相手の反応を確かめながら話す	○	○
	⑨声の調子や抑揚に気をつけて話す	○	
	⑩意図や目的を意識しながら話す	◎	◎
	⑪目的や見通しをもって話す	◎	
	⑫区切りやまとまりを考えて話す	◎	
2 聞き方	①話を最後まで聞く	◎	◎
	②反応しながら聞く	◎	◎
	③メモをとりながら聞く	◎	◎
	④相手が話しやすい態度で聞く	◎	
	⑤自分の考えと比べながら聞く	◎	○
	⑥話の中心に気をつけて聞く	◎	◎
	⑦相手の立場を考えながら聞く	◎	
	⑧感想や意見をもちながら聞く	◎	◎
	⑨事実と感想・意見を区別しながら聞く	○	
3 話し合いの 進め方	①手順を理解する	◎	○
	②マナーやルールを身につける	◎	◎
	③自分の立場や意図をはっきりさせて話す	◎	◎
	④話を受けて広げたり、深めたりする	◎	○
	⑤話題を整理しながら話し合う	◎	
	⑥自分の考えを整理しながら話し合う	◎	
	⑦共通点や相違点を考えながら話し合う	◎	◎
	⑧尋ねられたことに応える	◎	
	⑨わからないことは尋ね返す	◎	
	⑩限られた時間を有効に使う	◎	◎
4 発表の仕方	①形式を工夫する	◎	
	②役割分担を工夫する	◎	
	③必要に応じて原稿を準備する	◎	
	④視聴覚の効果を生かして伝える	◎	◎
	⑤限られた時間を有効に使う	◎	
	⑥資料の収集・選択の仕方を身に付ける	◎	
	⑦発表準備の手順を身に付ける	○	○

D 評価		事例 1	事例 2
1 自己評価	①コミュニケーション活動の課題や成長を自己認識させる	◎	
	②活動の記録や情報をまとめ、子ども自身に活動を振り返らせる	○	◎
	③評価を生かし改善を図り次の課題の設定を行わせる		◎
	④ワークシート等を活用し、子どもの関心・意欲を把握する	◎	◎
2 相互評価	①子ども自身が観点を知ることにより、学習活動に対して自覚を深めさせる	◎	
	②相互評価自体を、コミュニケーション活動の一助とする	◎	◎
	③他者からの客観的な評価を生かすようにする	◎	◎
	④互いのよさを認め合い、活動の意欲を喚起させる	◎	◎
3 教師の評価	①評価の観点を明確にする	◎	○
	②共感的な評価に心がける	◎	◎
	③子どもの評価を補うよう、多様な観点から評価する	◎	
	④記録の残し方を工夫し、子どもの課題や進歩を把握するようにする	◎	◎
	⑤評価を指導計画の改善に生かす	○	○
4 その他の評価 ・異学年からの評価等	①多様な相手からのさまざまな反応を受け止めさせる		◎
	②より大きな反響や評価が次への意欲づけになるようにする		◎

具体的な評価方法例

コミュニケーション活動の評価に関しては、身に付けた資質や能力が活動の過程や結果でどのようなになったかを把握し評価することを大切にしたい。これは自己決定・自己判断・自己評価の観点から評価しようとするものである。これらの中でも、子どもが自ら学びながら充実感を得られる学習活動の中で、自らを振り返ることが大切であり、自己・相互評価を中心として以下のような具体的な評価方法も上げることができる。

①ポートフォリオ評価

- ・子どもによる自己評価、子ども同士による相互評価、記録・作文・作品・ノート・ワークシートなどによる情報収集とともに、教師による短期から長期にわたる計画的な観察に基づき評価する。

②パフォーマンス評価

- ・作業能力等にかかわる総合評価であり、子どもたちの実際の行動や行為で評価する方法である。

評価カードの例

1 振り返りカード (A5版)	月 日 ()	氏名
※目的、子どもの発達段階、記入時間、記入場所等に応じて内容と各項目を設定する。 ◆今日の学習についてまとめましょう。 (1) () すごく楽しかった () 楽しかった () あまり楽しくなかった (2) 以下の () 内に◎等を記入させる。 ①友達や地域の方々と積極的にかかわることができましたか () ②話し合い活動を楽しむことができましたか () ③自分の思いや考えを表現 (言葉やジェスチャーなど) できましたか () ④自分の思いや考えを友達は分かってくれましたか () ⑤伝えたいことを進んで表現できましたか () (3) 楽しかったこと、学んだこと、工夫したことなど どんなどころが楽しかったですか 自由記述 ◆感想 (どんなことが、どうして、感じたこと、その他) 自由に今日の話し合い活動の感想をまとめましょう。 自由記述 ◆話し合い活動で話し合っていたことややっていたことを書きましょう。 次回に向けて 自由記述 ◆話し合い活動での友達のよさについて気がついたことをまとめましょう。 友達のよかったところ 自由記述		

評価カードの例 ※中学校外国語の授業におけるスピーチの発表で利用する。

2 英語のスピーチについて		月 日 ()	氏名
評価項目	点	備	考
1 課題・内容 ・はじめと終わり ・内容			
2 適切な音量で話している			
3 正しい英語で話している			
4 ジェスチャー・アイコンタクト・表情等			
5 その他提示物等の工夫			
総計			
コメント			

VIII 指導事例

事例 1 (中学校2年 国語科)

1 単元名「ニュース番組を作ろう」

2 単元のねらい

本単元は、子ども一人一人が主体的にコミュニケーションを中心とした共同作業を行う中で、ことばの力を生かし「伝え合う力」を高めることをねらいとしている。「主題設定の理由」で述べた「言語を通じた交流が苦手である」子どもの実態を考え、一人一人のコミュニケーション能力を高めることにより「互いが認め合い、高め合う」子どもの育成を追求し、学習計画を立てた。

具体的には、「ニュース番組を作り、発表し合う」学習を通して、相手とかかわりながらコミュニケーション活動を行う。学習指導要領（国語編）に示されている「言語感覚を豊かに」していくことをねらいとした。

本研究「コミュニケーションを大切にしたい指導法の工夫」を踏まえ、子どもが十分に自己の考えや思いを表現し、異なる考えをも受け入れられるよう支援する場面を授業の中で設定した。

3 学習指導計画（8時間、A・3等は「指導の手だて」（p. 8～11の記号・番号である。）

	1 時～2 時	3 時～5 時	6 時～8 時（本時）
学 習 内 容	・ニュース番組の特徴を知る。 ・作成グループを作り、仕事と役割の分担をする。 ・情報収集の計画を立てる。	・ニュース番組を作る。 ・班ごとのリハーサルをする。 ・編集作業をする。	・発表会をする。 ・意見交換会をする。
指 導 の 過 手 程	・コミュニケーション活動 その1 受信：情報収集と選択 発信準備①：個人の考えの確立 A・3	・コミュニケーション活動 その2 受信と発信：小グループでの活動 発信準備②：〃 A・3	・コミュニケーション活動 その3 受信と発信：全体での話し合い A・3
だ 適	・本単元に関する目的意識を明確にもたせるように	・一人でも多くの生徒に声かけをし、適切な助言を	・発表に現れない工夫を読みとらせる。

て	切 な 支 援	し、学習意欲の喚起をする。 B・1 ・コミュニケーション活動のしやすい環境・雰囲気づくりを行う。	する。 B・2 ・友人（班員）の考えや意見を素直に受け入れさせる。 ・少数意見も尊重させる。	・作品の背景や、問題提起の内容まで読みとるように声かけをする。 ・進行の仕方について理解させる。 ・多様な意見を尊重するよう呼びかける。
	ス キ ル の 指 導	・かかわり合い、話し合いでのルールやマナーを理解させる。C・3 ・自分の興味関心に合った課題を見つけさせる。 ・必要な情報を選択し、情報収集の方法を理解させる。	・小グループ、全体での話し合いの進め方の指導をする。C・3 ・課題設定の仕方や視点のとらえ方、情報収集と情報選択の仕方を指導する。C・3 ・まとめ方、発問の仕方についての指導をする。 ・発表の仕方・聞き方についての指導をする。	
	評 価	・本単元の学習内容や目的が理解できたか。 ・番組作成班の係の特性が理解できたか。 ・情報収集の方法を工夫し適切な情報を入手できたか。	・班員と協力して番組作成に貢献できたか。 ・班内で自分の意見を述べ、また、自分と異なる意見を聞き、小グループのコミュニケーション活動を行えたか。	・番組の伝えたい内容を理解し、自分の意見をもつことができたか。 ・自分の考えと友人の考えを比較検討し、自分の考えをより深めたり、新たな発見をすることができたか。

4 本時の指導

(1) ねらい

- ①必要な情報を取捨選択し、自分の考えをまとめ、深める。
- ②自分の考えを適切に伝えると同時に相手の考えや思いを正しく受け止める。
- ③互いが認め合い、よりよい人間関係を築く。

(2) 展 開

学 習 内 容	コミュニケーション活動の展開	
	ねらい（期待する効果）	手 だ て
1 本時の確認	・ 本時の学習に対する理解を深める。	・ 本時に関するルールやマナーの指導をする。 C・3
2 ニュース番組を鑑賞し自分の思いや意見をまとめる。 (受信と発信準備)	・ 課題（番組内容）の背景や要点を考察し、一人一人の情報収集能力の向上を図る。	・ 聞き方、書き方を指導する。 聞き方…何を伝えようとしているか意識して見る。 書き方…正誤にとらわれずに書く。 C・2
3 個人の意見を述べ合い班としての意見をまとめる。 (受信と発信①)	・ 自分の考えと友人の考えを比較検討し、自分の考えをより深め、新たな発見をする。 ↓ 【認め合い高め合う心の伸長】 ↓ 【豊かな人間関係の構築】	・ まとめ方、発表の仕方の指導をする。 まとめ方…分かり易く具体的にまとめる。 発表の仕方…簡潔な言葉で論点を明確にする。 C・4
4 学級全体で意見交換会を行う。		C・4 図や表等の工夫をする。
5 まとめ		

5 授業を振り返って

本単元では、子どもたちがコミュニケーションを手段として学習活動を展開できる場面を設定し、国語科の観点からコミュニケーションスキルを高めることを心がけた。

また、コミュニケーション活動を通して自分の思いや考えを素直に分かりやすく伝えるとともに、相手の思いや考えを受け、その意図やよさを認めていくことをねらいとした。その結果として、子ども同士の相互理解が深まり、認め合い高め合う心の伸長と豊かな人間関係の構築が図られると考えた。

本単元は、前掲の「指導の手だて」の中でも、特に「C スキルの指導」を中心により具体的に行った。

(1) 手だてと結果・・・発表の仕方について

①役割分担に関する指導について

本単元では、ニュース番組作成班の編成を5～7人とし、全員が何かの係を担うようにした。係分担の内容は、編集長・ディレクター・制作・アナウンサー・レポーターの五つ

とし、5人以上の班は、一つの係に複数の班員が入ること、また、班独自の係を作ること
も可とした。各係の担当内容は次の通りである。

係 名	担 当 内 容
編集長	・番組作りの責任者、作成班のまとめ役
ディレクター	・番組の企画、調査、編集等を行い、番組作りのリーダー役となる。 ・本番中の番組進行の指揮をとり、全体の監督をする。
制作	・レポーターの取材内容をまとめたり、模型やフリップ等の作成を行う。
アナウンサー	・番組内容を視聴者に知らせる。
レポーター	・番組内容を調査、取材し、取材内容をまとめ、報告書を作成する。

4クラスで、合計24の制作班を編成した。番組制作途中で多くの班が、係分担を制作当初のものから変更していた。また、係分担は変更しないまでも、番組制作過程で班員同士の協議が深まり、互いのよさを生かし役割にとらわれず協力する様子が見られた。

このことは、「役割分担について創意工夫すること」が、発表の仕方における重要なコミュニケーションスキルの一つでもあるととらえることができる。

②図や表の効果について

本単元の学習では、言語以外のコミュニケーションの手段（より効果的に発表するための図、表、模型等）についても工夫させた。本時の発表班の番組では、飛行機の模型が使用された。また、この班は、アンケートを同級生から行い、番組制作に生かそうと試みていた。授業で子どもが書いた自己評価カードの中に「視覚に印象付ける表現の大切さを知った」「写真や絵、模型の使い方を見習いたい」など、発表について具体的に評価する子どもがいた。

(2) スキルの指導の留意事項

本時のスキルの指導は、「聞き方」「書き方」「話し方（*読み方）」「伝え合い方」の各項目で行った。以下にその留意事項をまとめた。

	聞 き 方	書 き 方	話し方（*読み方）	伝え合い方
関心	・課題に正対して聞こうとする。	・進んでまとめようとする。	・聞き手を意識して話そうとする。	・効果的に伝え合おうとする。

意欲 態度	・反応して聞こうとする。 ・最後まで聞こうとする。 ・興味をもって聞こうとする。	・確認しながらまとめようとする。	・積極的に話そうとする。 *進んで読み、見方、考え方を広げようとする。	・互いの意見を尊重して伝え合おうとする。
表現		・分かりやすく書く。 ・具体的に書く。 ・読み手を意識して書く。	・簡潔に話す。 ・工夫して話す。	・話す速度、音量、抑揚、ジェスチャー、間の取り方、語句や図表の使い方等を工夫する。
思考 知識 理解	・場面や状況を的確に聞き取る。 ・内容を理解し、説明できるように聞く。	・考えながら書く。 ・問題点や疑問点を明確に書く。 ・分かったこと、発見したことを書く。	・整理して話す。 ・事実を分かりやすく話す。 *様々な情報を的確に読みとる。	・知らせたいことを選んで伝える。 ・自分の立場をはっきりさせて伝える。

(3) 課題（まとめ）

①題材の選定について

中学2年生は、心身共に大きく成長する時期である。興味・関心の拡散も見受けられ、個人差も大きい。題材は、子どもたちにとって身近なものにすべきであると考えた。多様な題材を子どもたちに提供したが指導が十分ではなかった。本単元で扱ったニュース番組は題材としてはやや難しかったので、題材の選定や提示の方法等を含めさらに工夫したい。

②話し合い活動の学習形態について

本時における話し合い活動は、「自分で考える」→「小グループ」→「全体」という順で行った。発表は学級全体の形態で行ったが、必ずしも適正な人数ではなかった。コミュニケーション活動を取り入れた授業を定着させていくためには、活動の目的や内容等に応じて学習形態を工夫することが大切であると考えた。

③聞き方の指導について

コミュニケーション活動の学習では、発信側（話す側）の指導に重点が置かれることが多かったが、聞く側の態度が話す側の意欲を伸ばし高めていくことも、本単元学習の中で散見された。今後、実態に応じて聞く側の指導をさらに工夫する必要があると感じた。

事例 2 (小学校3年 音楽—総合的な学習に向けて)

1 単元名 「歌って、踊って、合わせて—3年・キッズソーラン Part 2」

2 単元のねらい

- ・歌、踊り、合奏とそれぞれの活動を通して表現する楽しさを知る。
- ・友だちと協力しながら、一つのものを創り上げていく喜びを知る。
- ・一人一人のよさを生かしながら個々の表現力を高める。

4 学習指導計画(15時間) (A・3等は前掲の「指導の手だて」の記号・番号である。)

	学習内容	指導の手だて	
		学習過程	適切な支援
1 5 時	①運動会を思い出しながらみんなでキッズソーランを歌おう。踊ろう。 ・歌詞の内容を知り生活に密着した仕事歌であることを知る。 ・歌詞の内容、意味と踊り(身体表現)の関連性に気づく。 ②竹楽器でリズムを楽しもう。 ・打楽器は身体表現やかけ声を加えることで自然にリズム感が養われる。	・一斉指導、個人、大集団。 ・この学習のねらいやこれからの大まかな活動内容を理解する。 ・全員で合わせる楽しさ、喜びを実感できる場面を設定する。	・行事での取り組みを評価し、これからの学習に対する興味、関心、意欲を高める。
6 9 時	③自分の好きな活動を選ぼう。 ・①～②の活動を踏まえ、自分の意志で、歌組、踊り組、合奏組のいずれかを選択する。 ④パートごとの練習を頑張ろう。 ・話し合いや練習を通して協力することの大切さを知り、自分の役割を知る。	・三つのパートを編成する。 ・各パートでのコミュニケーション活動の充実を図る(1パート10～12人)。 A・3	・自分の意志で円滑に選択できるような場面を設定する。 ・共通の目標を設定しパート練習へ意欲をつなげる。B・1 ・自分の思いや考えを素直に発言できる雰囲気づくりをする。B・2 ・各パートもしくは個々に声かけをし、適切な助言をする。
10 15 時	⑤発表し合い、高め合おう。 ・パートごとに発表し合い、聴き合い、互いのよさを認め合い、さらに表現力を高めていく。 ⑥歌って、踊って、合わせて。まとめとして発表会を聞こう。 ・互い協力し合い、自分たちで創り上げる喜びを知る。	・各パートによる発表。A・4 ・3パートを合わせた大集団。	・各グループの工夫したところを紹介し、互いのよさや頑張りに気付かせる。D・2 ・感じたこと、思ったことを素直に発言できる雰囲気づくりをする。B・2

3 本主題との関連

音楽学習の楽しさは、自分の感情や思いを音で表現する、もしくは音や音楽を通して何かを感じ、喜んだり、味わったりすることができるという表現と鑑賞の活動が一体となって繰り広げられるところにある。音や音楽を通して個々の思いを表現し互いに聴き合い、共感し合い認め合いながら創り上げる音楽活動は、まさにコミュニケーションそのものであり、個と集団とのかかわり合いが中心となって展開されていくものであると考える。音楽の教科の特性を生かしつつ、子どもたちの成長、発達を促す“かかわり合い”を通してコミュニケーション能力を高めることにより、調和、想像力、表現力を追求したいと考える。

指 導 の 手 だ て	
スキルの指導	評 価
・教師の話や説明、問いかけに対するマナー ・しっかり教師に向き合い静かに話を聞かせる。 ・設問や問いかけには自分の意見をまとめてから答えさせる。 C・2 ・歌唱、身体表現、リズム奏で は一人一人が楽しく活動すると同時に互いの声や音を聴き合い、互いの動きを感じながら、皆で“合わせる”という意識を持たせる。	・これからの学習内容を理解し興味や関心をもって取り組むことができたか。 ・話を聞くマナーができたか。 ・自分の声や音、動き等を表すとき、互いの音を聴き合い、感じながら活動できているか。
・各パートでの話し合いのルール・マナー ・自分の思いや考えをはっきり伝えさせる。 C・3 ・相手の考えや意見を素直に受け入れさせる。 ・互いのよさや違いに気付かせる。 ・パートでの自分の役割、分担を明確にさせる。 ・歌・合奏組→互いの声や音を聴き合いながら調子を合わせるようにさせる。 ・踊り組→互いに動きを見ながら踊らせる。	・自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりして互いのよさを見つけることができたか。 ・パートでの役割を果たし、協力して進めることができたか。 ・音や動きを通して伝え合い聴き合うことでパートでの活動が活発になり次への学習意欲につなげることができたか。
・発表の仕方、聞き方の指導を行う。 C・2 C・4 ・他のパートの発表を聴くことで、相手のよさや工夫したところを知り、自分を高める力につなげる。 ・互いのよさを生かしつつ、各パートで、個々で、表現する力を高める。	・互いのよさを知り、認め合い自分自身を高めることができたか。 ・互いのよさを生かしながら、みんなで協力して一つのを創り上げる喜びを実感することができたか。 ・感想カード（ポートフォリオの活用6～15時間目）

5 本時の指導（学習内容⑤の2時間目）

(1) ねらい

- ・自分の考えを伝えたり、工夫したりすることを話し合い、協力しながら練習を進めることができる。
- ・互いに発表し合うことで、友だちのよさや頑張りを認め合う。

(2) 展開

	学 習 内 容	コミュニケーション活動の展開
		ねらい
導 入	①本時のねらいや活動内容を知る。 ・前時までの学習を生かして考える。	・前時での反省を踏まえ、本時の活動の理解や自分のめあてを考える。
	②パート練習、歌組、踊り組、合奏組に分かれる。 ③パートごとにどんな工夫をしたいのかを考える。 ④パート練習 歌組：かけ声の分担 リコーダーの練習等 踊り組：隊列、並び方の工夫 間奏と後奏の振り付け等 合奏組：竹、和太鼓、シンセサイザーとのアンサンブル練習等	・パート内でのコミュニケーション活動 ↓ 自分の考えを伝え合う。 相手の考えを聞き合う。 互いの考えを生かしながら各パートの練習ポイントを決める。 ・積極的にパート練習に参加する。 ・協力しながら合わせる楽しさを知る。
	⑤パートごとに発表する。 ⑥感想を述べ合う。	・互いのよさや頑張りを知る。 ・互いの率直な気持ちや感想を伝え合う。

6 授業を振り返って

本単元は、歌組、踊り組、合奏組の3パートでコミュニケーションを深める活動を中心としてきた。パートでの話し合いや、3パートを合わせた活動等で、自分の考えを相手に伝え合うことや聞き合うことを大切にしたりした。また活動後は、振り返りの時間を設定し、自分自身の感想や反省を述べる自己評価や、他のパートの工夫したところやよい点を見つけ合ったりする相互評価の場面づくりを行った。人とかかわりの中で互いのよさを認め合い、協力して次の活動の意欲を高め、表現することの楽しさや創り出す喜びを味わうことができた。感想カードは、子ども自身の活動の振り返りの機会となった。教師にとっても貴重な情報源で、指導上でも適切な助言や励ましに役に立った。また、コミュニケーションスキルの向上を図

コミュニケーション活動の展開	
手だて	期待する効果
・ 前時の感想を紹介し子どもの取り組みを評価。本時の学習への意欲を高める。B・1 ・ 各パートによるコミュニケーション活動の充実を図る。A・3 A・4 ・ 自分の考えを積極的に伝えることができるよう、必要な子どももしくはパートごとに助言したり励ましたりする。B・2 ・ 話し合いでのマナー、ルールの指導を行うC・3（※次頁参照） ・ 子どもたちの考えを尊重しながら、どんな練習方法がいいか方向づける。B・1 B・2	・ 自分の考えをまとめ、各パートで工夫し活動することへの関心・意欲につなげる。 ・ 話し合いによるコミュニケーション活動を通して、一人一人の考えを広げる。また互いのよさや違いを気づくことにより、自分自身やパート練習に生かす工夫をする。 ・ 各パートでの役割を考え、協力して活動する大切さや楽しさを知る。 ・ パート練習を重ねることにより、次への活動の意欲や期待感をもつ。
・ 発表の仕方、聴き方の指導を行う。C・2 C・4（※次頁参照） ・ 子ども同士による相互評価を行う。D・2 ・ 教師からの褒め言葉や助言を行う。D・3	・ 発表する経験を重ねることで、一人ひとりの自信へとつなげ、充実感を味わう。 ・ 互いのよさを知り、高め合う心を伸ばす。 ・ 互いの成果を認め合い次の活動への意欲につなげる。

る上では、学習過程の様々な場面で、子ども同士がかかわり合い、伝え合う場面設定の工夫の必要さが感じられた。本単元では自分の思いや考えを伝えることだけが優先し、相手の考えを受けとめることはとても難しく、トラブルやけんかも絶えなかった。そして教師による指導や配慮が必要とされる場面がたくさん見られた。しかし、話し合い活動や音楽活動を積み重ねていくうちに、相手のよさを感じとり、それを自分の思いと重ね合わせるといった気持ちが生まれ、人間関係も徐々に円滑になり、コミュニケーション能力の向上の芽が認められた。これからも、学習内容や発達段階を考慮した相互啓発が有効に働くようなコミュニケーション活動の展開を進めていきたい。

※授業での話し合い・音楽活動における具体的なコミュニケーションスキルの指導について

		ねらい	教師の発話	教師による自己評価
話し合い	話し方	・自分の考えを 的確に話す。	「自分の考えをまとめてから話してみよう」	◆子どもの発達段階及び主体的な活動を促すような具体的な声かけであったか。 ↓
		・自分の考えを 進んで話す。	「どんどん思ったこと、考えたことを話してみよう」	◇リーダーは特に決めていなかったが、いるパートは活発な話し合いができた。そうでないパートは『どんどん話して…、よく聞いて…』など促してもあまり話が進まなかった。
	聞き方	・相手の考えを しっかり聞く。	「相手の話をよく聞いてみよう」	一方向的な話し方や、話し合いに参加できない、沈黙するなどの場面が見られた。
		・相手の考えを 素直に受け止める。(否定しない)	「自分のと違った意見もしっかり聞こう」	◇話し合いが十分できないパートには、子どもの考えを引き出し、それを契機に話し合いができるよう、一層適切な支援が必要だった。 ◇たくさんの意見をまとめるのは難しく、『協力しよう』という声かけだけでは具体性に欠けていた。絶えず注意深く見守り、その都度、話し合いがスムーズに進むよう適切な支援を必要とした。
話し合いを共有して	伝え合いを共有	・互いの考えを知る。	「各パートで話し合ったことをまとめられるよう協力しよう」	◇相手の考えを素直に受け止める(否定しない)というルールを事前に指示しておくことで、自分の意見を安心して話させたり、相手の意見を聞く心構えをもたせたりする場の雰囲気づくりに心がけた。
		・共通点や違いを知る。	「各パートの代表の人が話し合ってまとめたものを伝えよう」	◇考えをまとめきれない話し方になる子どもに対しては、その都度、適切なつなぎ言葉で補いながら支援することができた。
話し合いを共有して	伝え合いを共有	・各パートで考えをまとめ伝える。	「他の人たちにわかるように伝えよう」	◇発表する子どもにとって、皆の前で伝えることことができたという自信につながるよう、適切な支援の必要性についても実感した。
		・各パートの役割、分担を皆で確認する。		◆話し合うための集団規模や構成は適切であったか。また、話し合いにかかる時間の指示は適切であったか。 ↓ ◇10～12人の集団では発言できずにいたり発言しなくてもすんでしまうこともある。5～6人が適当であったと考える。時間の指示は次の活動も踏まえ「今から～分で」と具体的に示し、適切な時間配分が必要であった。

		ねらい	教師の発話	教師による自己評価
音楽活動を通して	発表の仕方	・パート練習で協力して取り組んだところを積極的に伝える。 ・発表することを楽しむ。	『パートで頑張ったことを発表しよう』 『みんなが聴きやすいように発表する位置や隊型を考えよう』	◆発表することのねらいを一人一人把握していたか。 ↓ ◇『がんばって』の声かけは、曖昧な表現で『工夫したこと』の方がより適切であった。 ◆各パートが自信をもって発表できるよう喚起する声かけをしたか。 ↓ ◇発表前に、協力して練習していた様子や工夫したところを褒め、紹介することで、発表への意欲や楽しさにつなげることができた。緊張感のある中でも楽しんで発表できる声かけやその場の設定がさらに必要であった。
	聴き方	・集中して聴く、見る。 ・共感しながら肯定感をもって聴く。 ・相手のよさや工夫しているところに気づいたり探したりして聴く。 ・心をこめて拍手を送る。	『静かに聴こう』 『どのパートも一生懸命練習していたよ』 『工夫したところをみつけよう』 『前回との違いに気をつけてよく聴いてみよう』	◆友だちのよい点や工夫している点を見つけることにより、自分たちの活動を振り返る機会となり得たか。 ◆共感をもって聴くことや自分の考えや思いを重ね合わせながら聴きとるという声かけであったか。 ↓ ◇教師自らが発表への賞賛を込めた拍手を送り、子どもたちに自然な拍手を促すことが重要であると感じた。 ◇教師は感嘆の声と共に、褒めることを促すような声かけにとどめ、各パートの工夫した点やよい点は、子どもたちの感想をできる限り多く引き出すよう配慮した。多くの子どもから発表者に対する共感をこめた率直な感想が出された。
	伝え合い	・皆で気持ちを合わせ音や体で表現する喜びを味わう。 ・各パートのよさを認め合う。	『すごい！』 『よかったね！』 『前の発表と違っていたの分かった？』	◇褒められ、相手に気づいてもらうことで、表現する楽しさや喜び、自信となり、次の活動への意欲につながることを実感できた。
	共感	・自己評価をする。 ・相互評価をする。	『感想を言ってみよう、聞いてみよう』	◇互いのよさを認め合い、互いを高め合う活動をねらった。相互評価では、『こうしたらもっとよくなるよ』という子ども同士のやりとりを引き出す声かけの工夫の必要性も感じた。 ◇子どもの感想を教師が適切に補足し、反復して皆に伝えることにより、あらためて受け止めてもらうことのうれしさやさらなる発表の意欲につながると実感できた。

Ⅸ 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

(1) 子どもたちのコミュニケーションスキルが向上した

コミュニケーションに関する活動を授業の中で数多く設定したために、子どもたちの「話す・聞く」といったスキルの向上が顕著となった。「話す」では、相手にしっかり伝わるように、声の大きさや速さなどに注意を払い、相手に伝えたい点を整理してから話す子どもが増えてきた。また、「聞く」では、はじめから否定的な態度で人の話を聞くのではなく、相手の話を尊重して聞ける子どもが増えてきた。さらに、思いや考えを共有しようとする姿が見られるようになった。また、話し合いや発表の場においても、向上が認められた。

(2) 子どもたちが、積極的に他者とかかわろうとするようになった

子どもたちが自己を十分表現したり、相手の思いや考えを受け入れていくといったコミュニケーション場面を授業の中で多く取り入れたことによって、子どもたちは他者とかかわることの素晴らしさや楽しさを十分味わった。また、授業中だけにとどまらず、様々な場面で他者と積極的にかかわっていきこうとする姿が子どもたちに見られるようになってきている。さらに、子どもたちの学習活動が活性化し、学校生活がより充実したものになっている。

(3) 教師のコミュニケーションに対する意識が高まった

豊かな人間関係の構築にはコミュニケーション能力を高めることが有効である。そのためには、個々のコミュニケーション能力が如何なく発揮できるような雰囲気づくりと、子どもたちの発言を促す適切な発問や言葉遣いに配慮することが大切であると実践を通して再認識した。

2 今後の課題

(1) コミュニケーション能力をどう評価していくか

個々のコミュニケーション能力の高まりを、子どもたち一人一人にどのような方法で自覚させるかという課題が残った。適切な手だてを講じ、子どもたちにこの高まりを自覚させ、自信をもたせたい。すなわち子どもたちがかわり合いの中で学び、互いに高まり合うことに喜びを感じられる評価の工夫をしていきたい。

(2) 豊かな人間関係の構築を目指すために系統的・組織的に取り組む

本研究でコミュニケーションスキルは向上してきた。しかし、豊かな人間関係の構築に発展させるには手だての工夫と計画的・継続的な指導が今後さらに必要である。

そのためには日々の授業でコミュニケーションの活動を意図的に取り入れて、子どもたちのスキル向上に絶えず努めていくことのみならず、学校全体で系統的・組織的に取り組んでいく必要がある。

また、「活動あって学習なし」ということにならないように、子どもにとって身近なものを学習材として取り入れようとするのと同時に、各教科等の目標を踏まえたうえで、本時の学習のねらいは何で、どのような学力をつけようとしているのか、どのような指導ができるのかを厳しく検証する必要がある。

さらに、教師自らが、進んであいさつをし、状況に応じた望ましい言葉遣いをするなど、豊かで適切なコミュニケーションの模範となるよう心がけたい。